

2025 6/24

No.2237

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



「横浜開港祭」の花火が6月2日、横浜港で打ち上げられ、新造客船「飛鳥Ⅲ」との競演も見られた。同港では、7月5、12日、8月10日に「横浜ナイトフラワーズ」、8月4日に「みなとみらいスマートフェスティバル 2025」の花火が打ち上げられる予定。



視点点描	
ファン垂涎 ^{すいぜん} の熱戦開幕へ	3
特集	
スマホを媒介としたSNS利用がもたらす 「身体性革命」	4
政治双眼鏡	
政権の分岐点の可能性 小泉劇場の結果は？	8
経済双眼鏡	
どうなるグーグル解体審理 歴史は繰り返すのか	9
水谷竹秀×リアルワールド	
「ロマンス詐欺発祥の地」 ナイジェリア	10
グリーン&ブルー	
農産物の適正価格とは？	11
くらし2025	
保険外しで1兆円削減？ OTC類似薬巡り賛否 維新提案、揺れる与党	12
神奈川景気データファイル	
	14

事務局だより

◇2025年7月定例講演会
7月15日(火)午後1時30分～3時
県民共済みらいホール
(桜木町・県民共済プラザビル内)
講師：横浜国立大学台風科学
技術研究センター長
筆保 弘徳 氏
演題：「タイフーンショット計画
～台風の脅威を恵みに～」

◇2025年8月定例会
8月28日(木)午後2時30分～5時
麒麟ビール横浜工場(横浜市
鶴見区生麦)見学と工場長講話
講師：麒麟ビール横浜工場長
藤原 義寿 氏
※午後5時～、同工場ビアホール
で懇親会(参加費5千円)

◇2025年9月定例講演会
9月24日(水)午後1時30分～3時
かながわ労働プラザ(石川町駅近く)
講師：神奈川新聞社特別編集委員
有吉 敏 氏

【お知らせ】神奈川政経懇話会では、会報「政経かながわ」に会員企業の新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局☎045(226) 2121。

視点 点描



ファン垂涎の熱戦開幕へ

高校野球の夏の神奈川大会は7月5日に開幕する。今年は合同6チームを含めて172チームが参加。夏の甲子園を目指して熱戦を繰り広げる。

注目は何と言っても横浜高校の勝ち上がりだ。昨秋の明治神宮大会、今春のセンバツ甲子園を制してきた日本一のチーム。当然目標は史上9度目、横浜高校としては

「平成の怪物」と呼ばれた松坂大輔投手がいた1998年に続いて2度目となる甲子園春夏連覇になる。奥村頼人投手、織田翔希投手の左右のエースを擁し、下級生から名門の主将を務めてきた阿部葉太外野手が攻撃を牽引する。実力はまさに全国屈指だ。

とはいえ、そんな横浜でも簡単には勝ち上がれないのが激戦区・

神奈川。多くのライバルが立ち上がる。筆頭やはり東海大相模高校。昨夏の決勝で横浜を破って甲子園に出場したメンバーが投打ともに残る。中村龍之介外野手、金本貫汰内野手を軸にする打線、復調を急ぐ150キロ右腕福田拓翔投手ら、力は横浜と遜色ない。ともに第1シードで、対戦するとなれば決勝戦。地区大会でこの両校が見られる今夏の神奈川大会は、まさに高校野球ファン垂涎のイベントだろう。

ほかにも強豪校は数え切れないが、公立勢では米メジャーリーグのスカウトも注目する左腕浜岡蒼太投手を擁する川和高校。チームの目標を「打倒横浜」に定めており、打線も鍛えられている。センバツ甲子園に21世紀枠で出場した横浜清陵高校にも注目だ。甲子園では悔しい思いもしたと思うが、経験を生かす夏。いまだ甲子園出

場校を出していない三浦半島地区から、第1シードの三浦学苑高校をはじめ3校がシード入りしているのも面白い。

そして台風の目となりそうなのが強豪ノーシード校の存在。春の県大会は力が拮抗し、桐光学園高校が県立の大師高校に初戦で敗退。

川和高校にやはり初戦で負けた日大藤沢高校、2023年の夏日本一の慶応高校もノーシードだ。これほどノーシードが強力な大会は記憶にない。ノーシードになると優勝

までに8試合を勝たなければならぬが、番狂わせが起きやすい大会序盤に有力チームと対戦できる挑戦者の強みもある。横浜高校といえども油断はできず、初戦から好カードがめじろ押しだ。使われるのは県内12球場。お近くのスタジアムに、是非ともお出掛けを。

(神奈川新聞社運動部編集委員兼

論説委員・和城 信行)